

事業報告

平成28年度 公益社団法人さいたま観光国際協会事業報告書
(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

さいたま市及びその周辺地域における観光、コンベンション事業及び国際交流、国際協力事業の振興を図り、文化向上と、多文化共生の社会づくりを促進し、地域社会の発展とともに、国際化に資することを目的とする。

(2) 概況

① 設立年月日 平成3年4月6日(平成25年10月1日公益社団法人へ移行)

② 基本財産 2億2,020万円

③ 実施事業

内外観光客及びコンベンションの誘致促進、開催支援並びに広報宣伝

観光及びコンベンションに関する調査研究並びに情報の収集・提供

観光及びコンベンション振興のためのイベント等の開催並びに観光・物産の開発・振興

国際交流、国際協力に関する多文化共生事業

国際交流センター、観光案内所その他関連施設等の管理及び運営

その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の人数(平成29年3月31日現在)

会 長	1人
副 会 長	3人
専務理事	1人
常務理事	2人
理 事	23人
監 事	3人

(2) 理事・監事

① 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動事項
平成28年6月19日	理 事	岡 安 博 文	辞 任
平成28年6月19日	理 事	齊 藤 公 司	辞 任
平成28年6月19日	理 事	野 間 薫	辞 任
平成28年6月19日	理 事	増 井 奈 緒 美	辞 任
平成28年6月19日	理 事	宮 崎 裕 雅	辞 任
平成28年6月19日	理 事	矢 代 直 文	辞 任
平成28年6月20日	理 事	阿 部 順 平	就 任
平成28年6月20日	理 事	新 井 久 夫	就 任
平成28年6月20日	理 事	井 上 政 行	就 任
平成28年6月20日	理 事	貝 沼 勤	就 任
平成28年6月20日	理 事	金 子 康	就 任
平成28年6月20日	理 事	土 井 克 馬	就 任

② 平成28年3月31日現在の理事・監事は次のとおりである。

役 職	氏 名	就任年月日
会 長 (代表理事)	清 水 志摩子	平成25年6月24日
副 会 長 (代表理事)	本 田 秋 満	平成25年6月24日
副 会 長	佐 伯 鋼 兵	平成26年6月27日
副 会 長	土 井 克 馬	平成28年6月20日
専務理事	阿 部 順 平	平成28年6月20日
常務理事	渋 谷 恒	平成25年6月24日
常務理事	坂 野 豊 樹	平成27年6月23日
理 事	新 井 久 夫	平成28年6月20日
理 事	泉 名 宣 男	平成26年6月27日
理 事	井 上 政 行	平成28年6月20日
理 事	岩 渕 均	平成25年6月24日
理 事	大信田 尚 樹	平成26年6月27日
理 事	貝 沼 勤	平成28年6月20日
理 事	金 子 康	平成28年6月20日
理 事	金 子 義 人	平成26年6月27日
理 事	久 世 晴 雅	平成25年6月24日
理 事	國 谷 桂 子	平成25年6月24日
理 事	菅 谷 賢一郎	平成26年6月27日
理 事	高 橋 三 男	平成25年6月24日
理 事	田 中 徹 夫	平成25年6月24日
理 事	富 永 庄 蔵	平成25年6月24日
理 事	中牟田 久	平成27年6月23日
理 事	中 村 隆 志	平成27年6月23日
理 事	橋 本 和 久	平成25年6月24日
理 事	濱 野 博 美	平成25年6月24日
理 事	東角井 真 臣	平成25年6月24日
理 事	日 野 俊 彦	平成25年6月24日
理 事	丸 弘	平成25年6月24日
理 事	守 屋 二 郎	平成25年6月24日
理 事	山 口 宏 樹	平成26年6月27日
監 事	荒 井 伸 夫	平成25年6月24日
監 事	井 原 實	平成25年6月24日
監 事	鈴 木 孝	平成25年6月24日

3 会員数の状況

種 類	前年度末	当年度末	増 減	備 考
正会員	932	913	(△19)	
うち法人・団体会員	(780)	(777)	(△3)	法人・団体 入会28 退会31
うち個人会員	(152)	(136)	(△16)	個人 入会7 退会23
賛助会員	322	311	(△11)	入会73 退会84

4 理事会及び総会の開催

(1) 理事会

開催日時	議決事項等
平成28年5月31日 (第1回理事会)	(議題) 議案第1号 平成27年度 事業報告 議案第2号 平成27年度 決算報告 議案第3号 定款の変更について 議案第4号 理事の選任について 議案第5号 功労者表彰の選考について 議案第6号 定時総会の開催及び日程について
平成28年6月20日 (第1回臨時理事会)	(議題) 議案第7号 副会長、専務理事の互選について
平成29年3月23日 (第2回理事会)	(報告事項) 平成28年度事業執行状況について 諸規則の一部を改正する規則の制定に関する会長専決事項について (議題) 議案第8号 平成29年度事業計画について 議案第9号 平成29年度収支予算について 議案第10号 諸規則の一部を改正する規則の制定について

(2) 総会

開催日時	議決事項等
平成28年6月20日 (第1回定時総会)	(報告事項) 平成27年度事業報告 (議題) 議案第1号 平成27年度決算報告 議案第2号 定款の変更について 議案第3号 公益社団法人さいたま観光国際協会役員の報酬及び費用に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第4号 理事の選任について

5 職員の状況

平成29年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

区 分	事務 局長	副参与・ センター長	主幹	主査	主任	主事	契約・臨時	合計
事務総括	1							1
総務担当			(1)	2	1	1	1	5
観光事業担当				3	4	2	2	11
コンベンション事業 担当			1	1		1		3
広報宣伝事業担当			1	1				2
スポーツコミッショ ン事業担当		1		2		1		4
国際交流センター		1		1			5	7
合 計	1	2	2	10	5	5	8	33

※広報宣伝事業担当主幹は総務担当主幹の兼務

6 事業の実施状況等

【公益目的事業】

(1) 観光等振興事業(公益目的事業1)

■観光事業

①観光振興事業

地域観光振興事業・団体等への助成・支援

大正時代まつり・さいたま太鼓エキスパート・与野七福神めぐり・人形のまち岩槻まちかど雛めぐり・人形のまち岩槻流しびな等

各種観光セールス、観光キャンペーン等への参加

函館市(4月24日・25日)、盛岡市(8月28日)、函館市(9月10日・11日)、東京都葛飾区(1月8日)等

JR東日本・さいたま市・川越市合同観光PRキャラバン(12月16日 [JR新宿駅]、1月11日 [JR千葉駅]、1月28日・29日 [JR川越駅]、2月16日 [JR横浜駅])

花の名所の維持管理

観光ボランティア団体との連携

②推奨土産品認定事業

平成29・30年度の2年間、「さいたま推奨土産品」として推奨する土産品50点と、その中から特に優れている「金賞」土産品7点を選定した(2月11日)

推奨土産品の広報及び販売経路の拡充

さいたま市新年名刺交換会(1月4日)

③観光イベント事業

岩槻城址公園桜まつり(4月2日・3日 入込約33,000人)

さくら草まつり(4月16日・17日 入込約6,200人)

大宮薪能(5月27日・28日 入込約2,380人)

植木草花市(6月30日 入込約15,000人)

人形のまち岩槻朝顔市(7月3日 入込約4,000人)

浦和まつり前夜祭(7月15日 入込428人)

与野夏祭り(7月16日・17日 入込約170,000人)

浦和まつり中山道会場 音楽パレード(7月17日 入込約40,000人)

浦和まつり中山道会場 浦和おどり(7月17日 入込約80,000人)

浦和まつり中山道会場 みこし渡御(7月24日 入込約130,000人)

さいたまるしえinさいたまクリテリウム(10月29日 入込約56,000人)

十日市(12月10日 入込約300,000人)

十二日まち(12月12日 入込約130,000人)

さいたまるしえwithさいたまーチ(3月25日・26日 入込約6,800人)

④観光に関する調査研究

既存の観光事業の分析・検証

地域観光情報の基礎データベースの整理、観光資源の調査

さいたま市観光振興ビジョン実現に向けた協力

⑤事務局受託事業

ばらまつり(5月21日・22日 入込約170,000人)

大宮夏まつり前夜祭(7月14日 入込414人)

さいたま市花火大会 大和田公園会場(7月30日 入込約100,000人)

西口夏まつり(7月31日 入込約20,000人)

スパークカーニバル(8月1日 入込約220,000人)

中山道まつり(8月1日・2日 入込約260,000人)

さいたま市花火大会 東浦和 大間木公園会場(8月11日 入込約90,000人)

さいたま市花火大会 岩槻文化公園会場(8月20日 入込約40,000人)

■コンベンション事業

①誘致支援事業

コンベンション主催者へのセールス活動の推進

日本政府観光局(JNTO)などからの国際会議情報や、各主催者団体のホームページ等により、開催地並びに役員名等の情報を分析し、本市開催の可能性が高い団体に対して、県内キーマンや団体本部を中心に誘致セールスを行った。

観光マップ、コンベンションバッグ等の提供

さいたま市Walkerを33件、13,209部、観光マップを48件、19,281部、コンベンションビニールバックを28件、12,974部、コンベンション不織布バッグを5件、4,120部提供し、本市開催のメリットをアピールした。

インターネットによるコンベンション情報の発信

支援メニューの充実を図るとともに案内をわかりやすくし、主催者の利便性を高めた。

コンベンション開催時における推奨土産品販売所の出店

当協会直接の販売所設置は行っていないが、コンベンション会場への埼玉県物産観光協会による土産品販売所の設置や土産品のPRを行った。

産業観光、アトラクション情報等の提供

コンベンション参加者ガイドの提供

「会議・コンベンション参加者便利帖」を作成、27件、12,350部提供した。

推奨コンベンション弁当の周知

支援パンフレット・HPや施設見学会等で主催者に周知を図った。

会場・観光地等の写真貸出システムの拡充

主催者が宣伝周知用に作成するポスター等への活用を促進した。

会議・レセプション等のユニークな会場の発掘・拡充

本市ならではのユニークメニューとして、式典や懇親会が行える会場のリーフレットを作成し、主催者に周知を図るとともに、会場施設(鉄道博物館・埼玉スタジアム2002)との連携を行った。

第8回世界盆栽大会(2017年)の推進

その他コンサルティング

②IME出展事業

国際ミーティング・エキスポ「IME2016」への出展

12月6日(火)・7日(水)、パシフィコ横浜において、観光庁、日本政府観光局(JNTO)及び、日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)主催の「第26回国際ミーティング・エキスポ(IME2016)」へ市内コンベンション施設の協力のもと出展し、さいたまブースに来場した主催者49名に対し、本市への開催誘致を図った。(全来場者数2,791名)

③施設見学会事業

コンベンション施設見学会(年1回)の開催

2月6日(月)、IME2016におけるさいたまブース来場者へのフォローアップ及び新規顧客の獲得を目的に、主催者・エージェント等を対象とした施設見学会(ソニックシティ・鉄道博物館・さいたまスーパーアリーナ)を開催し、22団体53名の参加があった。その後、参加団体については通常セールス活動でフォローすることとしている。

ソニックシティ施設内覧会(年1回)への協力

7月19日(火)、ソニックシティ主催の施設内覧会へ職員を派遣し、支援内容の説明、観光スポットの案内等を行った。

④情報収集事業

コンベンションデータ(顧客名簿・開催意向等)の管理及び更新

分析調査及び誘致セールスで得た各種情報をデータベース化し、系統的セールス活動が行えるよう管理・更新を図っている。

観光・コンベンション団体、関係機関との広域連携による情報収集

JCCB、全国コンベンション運営事業者協議会の総会等及びJCCB主催のコンベンションビューロー部会、研修会等に参加し、他市ビューローや業界関係者との情報交換を行った。また、コンベンション推進団体による各種統計・アンケート調査等に対し随時協力した。

⑤経済波及効果調査事業

コンベンション開催による経済波及効果調査の実施

27年度における年間開催件数を調査し、コンベンション事業に対する行政及び民間の理解と協力を働きかけるため、年間経済波及効果報告書の基礎資料を作成した。

個別コンベンション開催実績調査の実施

本市で開催されたコンベンションの実施を計数的に把握するため、28年度に開催された個別のコンベンション(6件)における経済波及効果を調査した。

⑥コンベンション開催助成金制度の実施

コンベンション開催助成金制度の実施

本市における更なるコンベンション誘致及び開催の推進を図るため、「コンベンション開催助成金」として、16件8,482,000円を助成した。さらに、本市観光の魅力発信強化を図るため、「アフターコンベンション開催助成金」として、3件432,000円を助成した。

■広報宣伝事業

①広報宣伝活動

観光情報誌「さいたま市Walker×Sai's(さいず)」の発行(年4回)(各号44,000部)

テレビ、新聞・タウン誌、Web等の取材対応

ご当地グルメや、ご当地キャラクターなどのPR

大宮盆栽ホームページの運営

世界盆栽大会運営に関する協力

②インターネットによるシティセールス

ホームページ「web S@i's(うえぶさいず)」及びブログ「もぎたてさいたま情報」による国内外への誘致・PR

ツイッター「@SaitamaTIB」やFacebookページなどソーシャルネットワークを活用した観光情報の発信

■スポーツコミッション事業

①スポーツイベント誘致支援等事業

スポーツイベント主催者への大会等誘致活動

本市開催の可能性が高い各種スポーツ競技団体等に対して誘致セールスを行った。

〈平成29年度開催予定大会数〉 37大会 ※平成29年3月31日現在

スポーツイベント主催者への大会等運営支援

開催会場の確保・調整、スポーツイベント開催助成金制度による財政支援、大会の広報・PR、各種資料・情報提供、飲食物販売所の設置、行政機関への調整等、各種運営支援を行った。

インターネット及び各種広報媒体によるPR活動

ホームページ (<http://saitamasc.jp>) によるさいたまスポーツコミッション (SSC) の支援メニュー及び市内スポーツ施設等の情報発信を行うとともに、支援イベントの集客プロモーション活動を行った。

〈SSCホームページアクセス数〉 訪問者数：47,810件、ページ閲覧数：101,708ページビュー

メガ・スポーツイベントの事前合宿誘致活動

多言語ホームページ (<http://saitama-trainingcamp.jp>) によるトレーニングキャンプ (TC) 実施可能施設等の情報発信を行うとともに、海外の各種競技団体の施設見学等に立ち会った。

〈TCホームページアクセス数〉 訪問者数：2,030、ページ閲覧数：4,858ページビュー

各種プロモーション活動

・スポーツアコードコンベンション2016

日 程：4月19日 (火)～21日 (木)

会 場：スイス・ローザンヌ市 スイステックコンベンションセンター

主 催：スポーツアコードコンベンション実行委員会

・スポルテック2016 第3回スポーツイベントEXPO

日 程：8月2日 (火)～4日 (木)

会 場：東京ビックサイト

主 催：スポルテック実行委員会

共 催：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構

・第26回台湾国際快樂健行 (台湾国際ツアーデーマーチ)

日 程：11月12日 (土)・13日 (日)

会 場：台湾・台北市 関渡小学校

主 催：中華民国山岳協会

スポーツイベントによる経済波及効果調査

基礎調査収集として24大会にアンケート調査を行うとともに、さいたまスポーツコミッションの平成27年度誘致・支援大会における経済波及効果額を推計した。

〈平成27年度経済効果推計額 (平成27年4月～平成28年3月)〉 約80.2億円

スポーツ関連情報収集活動

スポーツツーリズムを推進する役割を担った全国的なネットワークを構築する一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 (JSTA) 等に参画・連携を図り、各種スポーツイベント情報の収集及び情報交換を行った。

さいたまスポーツコミッション設立5周年記念事業の開催

連携協定を締結しているロッテルダムトップスポーツ (オランダ・ロッテルダム市) ディレクターのハンス・デン・オーデンダマー氏を招聘し、シンポジウムを開催した。

期 日：10月31日 (月)

会 場：ソニックシティ国際会議室

テーマ：地域スポーツコミッションのこれからを考える

参加者：172人 (講師・パネリスト・事務局係員含む)

②ウオーキングイベント開催事業

- ・第5回さいたまマーチ ～見沼ツデーウオーク～

日 程：3月25日(土)・26日(日)

会 場：さいたま新都心から見沼田圃周辺

コース：2ルート(見沼田んぼ北側、南側)各30km、20km、15km(25日のみ)、10km、ingress10km(25日のみ)、5km

主 管：さいたまマーチ実行委員会

参加者：5,630人(大会役員・関係者含む)

③サイクルイベント共催事業

- ・J:COM presents 2016 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム

日 程：10月29日(土)

会 場：さいたま新都心駅周辺

内 容：クリテリウムレース、個人タイムトライアルレース、ポイントレース 等

主 管：2016さいたまクリテリウム実行委員会

来場者：約101,000人

※公益財団法人JKA及びさいたまクリテリウム実行委員会補助金分の会場設営等業務を行った。

④スポーツイベント開催助成事業

スポーツイベントの誘致及び開催の推進を図るため、スポーツイベント開催助成金交付制度を活用し、23件(総額14,149,000円)を助成した。

■観光案内所運営事業

①観光案内所等の管理運営

大宮駅観光案内所(JR大宮駅東西自由通路内)、さいたま新都心観光案内所(JRさいたま新都心駅東西自由通路内)、浦和観光案内所(アトレ浦和内)、岩槻観光案内所(東武岩槻駅自由通路内)の運営

- ・観光案内業務
- ・各種パンフレット配布業務
- ・ビジット・ジャパン案内所のネットワークによる情報収集・発信

(2)多文化共生、国際相互理解促進事業(公益目的事業2)

■国際交流事業

①国際推進事業

多言語生活相談

英語、中国語、韓国・朝鮮語による生活相談や各種行政情報の翻訳を実施。

相談日及び件数：10件：中国語(毎週火曜日)、英語(毎週水曜日)、韓国・朝鮮語(毎週木曜日)

3件：簡易生活相談(毎週月曜日～木曜日)

ボランティア(通訳・翻訳、ホストファミリー、イベント)派遣事業

市等の公的機関からの要請に基づき、通訳ボランティアの派遣、ホームステイ受入れ家庭の紹介及び国際交流イベント等へのイベントボランティアの募集と派遣を行った。

ボランティア区分	登録者数	依頼数
通訳・翻訳ボランティア	508人 (20言語 延べ621人)	通訳58人 翻訳86人
ホストファミリー	262家庭	53家庭
イベントボランティア	登録者実数636人	527人

外国人への日本語支援事業

在住外国人のための日本語教室を毎週金曜日に国際交流センター(浦和コース)及び大宮区役所内(大宮コース)で開催。日本語習得の支援や行政・生活情報を提供した。

参加者総数：5,615人(学習者2,574人、要保育児156人、スタッフ等2,885人)

○教室別内訳

《浦和コース》4,322人(学習者1,962人、要保育児134人、スタッフ等2,226人)

午前保育付コース 1,715人(学習者593人、要保育児134人、スタッフ等988人)

子どもコース 1,059人(学習者600人、スタッフ等459人)

夜一般コース 1,548人(学習者769人、スタッフ等779人)

《大宮コース：午前保育付コース》

1,293人(学習者612人、要保育児22人、スタッフ等659人)

外国人市民に向けた地域・生活情報の提供(多言語生活情報誌「ぷらら」の発行)

外国人市民に向けた、地域・生活情報誌を5言語(日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)で発行した。(51号：6月、52号：7月、53号：9月、54号：12月、55号：3月、計10,884部発行)

国際友好フェア

市民及び市内在住外国人等による各種展示・発表等を行い、国際交流や異文化理解の推進につとめた。

日 程：5月3日(祝)、4日(祝)

会 場：市民の森・見沼グリーンセンター

参加団体：60団体(30の国と地域)

来場者数：約65,000人

外国人による日本語スピーチ大会

在住外国人と市民の相互理解を深めるため、2月4日(土)に「出逢い・発見 ～さいたまに来て、見て、感じて～」をテーマに市内在住、在勤、在学の外国人による「日本語スピーチ大会」を開催した。

(会場：浦和コミュニティセンター多目的ホール、発表者：10人、来場者：194人)

姉妹都市交流事業

28年度はスポーツ少年団派遣事業として、アメリカ合衆国リッチモンド市へ野球少年団を派遣した。なお、メキシコ合衆国トルーカ市へのサッカー少年団派遣は参加希望者少数のため実施見送りとした。

【サッカー少年団トルーカ市派遣】

実施見送り

【野球少年団リッチモンド市派遣】

日 程：8月2日(火)～9日(火)

人 数：36人(野球団26人、役員10人)

国際ふれあいフェア

さいたま市の姉妹・友好都市を中心に、各国の文化などを紹介し、異文化理解の推進を図った。

日 程：10月9日(日)

会 場：浦和駅東口駅前市民広場

参加団体：20団体(19ヶ国)

来場者数：約7,000人

②国際交流事業

国際交流センター情報誌発行

国際交流センター情報誌「IEC News」を発行。国際交流センターの事業や各種国際交流関係の情報を提供した。(4回発行 6月、9月、11月、2月 各号2,500部発行)

ボランティア養成講座

28年度は平成29年4月の世界盆栽大会開催にあわせ、観光に特化した養成講座を3回行った。

第1回入門編講座(10月2日 参加者57人)、第2回基礎編講座(12月18日 参加者57人)

第3回体験編講座(3月11日 参加者30人)

また防災については、国際友好フェア会場における応急手当体験(5月3日、4日 来場者582人)、

さいたま市総合防災訓練参加(9月1日 参加者8人、内外国人4人)、国際ふれあいフェア会場における

応急手当体験(10月9日 来場者93人)を行った。

ユース国際ボランティア養成

国際交流や国際協力に興味のある学生を中心とした、ユース国際ボランティアメンバーによる養成事業として、浦和まつり会場や調神社を散策して伝統行事・文化への理解を深め、エジプト陶芸ワークショップを通じてお互いの親睦を深めたほか、ユースカフェを開催して日本人学生と留学生が自由に歓談して交流する場を設定した。

次世代育成セミナー

高校・大学生世代を対象に、日本の伝統・文化やさいたま市の魅力を理解するイベント等を通じて、さいたま市における青少年育成のための国際社会への意識の高揚を図るため、3月19日（日）さいたま市立博物館にてセミナーを開催。

日本語ボランティア養成講座

市内の日本語ボランティア教室の活動支援を目的に、日本語ボランティア養成講座を開催。

（入門編）

日 程：11月7日（月）～12月21日（水）計10回

会 場：国際交流センター 多目的室

参加人数：各日30人 スタッフ各日5人

日本語国際センター研修生との交流

日本語国際センターの研修生と会員との交流を通じ、研修生にさいたま市への親近感を深めることを目的として、国際交流基金日本語国際センターを会場に、交流会を10月25日（火）（参加者：179人）と2月2日（木）（参加者：131人）の2回実施した。

国際交流サロン交流会（はじめましての会）

市内に住み始めて間もない外国人市民を対象に地域住民との交流を目的として、4月16日（土）（参加者：80人）と10月15日（土）（参加者：107人）に浦和コミュニティセンターで2回開催した。

国際交流サロン交流会（着付体験・交流会）

日本文化体験として外国人市民を対象に着物の着付け体験会を1月8日（日）に氷川の杜文化館を会場に実施した。着物の種類や用途を学びつつ、日本文化に対する理解を深めると同時に地域住民と交流を図り国際交流を促進した。（参加者：91人）

ホームビジット

ホストファミリーのホームステイ受入の準備体験と留学生の日本の家庭での生活体験を目的に、半日のホームステイとしてホームビジットを6月4日（土）（留学生23人）と、11月12日（土）（留学生28人）を実施した。

異文化交流のための語学講座

多言語を学ぶとともに、姉妹友好都市への理解を深めるために、前期2言語、後期3言語による講座を実施した。

〈前期受講者数〉英語（入門）18人、英語（初中級）15人、スペイン語（入門）18人

〈後期受講者数〉英語（初中級）18人、ドイツ語（入門）19人、スペイン語（入門）12人、英会話（入門）18人、ママのための英会話（初中級）10人

サロン企画事業（ミニ講座・サロン展示・おしゃべりサロン）

国際交流サロンスペース（ぶらっとサロン）を利用し、在住外国人に対する簡易生活相談や各種情報の提供と、サロンでの企画展示や文化紹介等のミニ講座などを実施。

●ミニ講座 12回開催（参加者合計：527人）

●おしゃべりサロン（英語、韓国語、スペイン語、中国語、日本語、ロシア語 参加者：1,757人）

外国人市民への子育て支援

市内在住外国人の子育て支援のため、日本で子育てをした外国人のお母さんの体験談や小児科医による子育て中の健康管理の話など、年7回（5月、6月、8月、10月、10月～11月（3日間）12月、2月）に渡り開催。

姉妹友好都市交流支援

姉妹友好都市事業チームによる活動の他、川越市国際文化交流課を訪問し、川越市の活動状況をお話しいただくとともに、相互の姉妹都市交流の活動内容などの情報交換を行った。

またメキシコ大使館文化部を通してメキシコ大使館に訪問した。

コムナーレ各施設との連携事業

さいたま市市民活動サポートセンターフェスティバルの連携事業として、3月4日（土）ぷらっとサロンにて「Miyackアコーディオン演奏会」を開催した。様々な世界の音楽を通して、市民の国際交流への理解を深めた。

（参加者数：104名）

③国際協力事業

さいたま市国際NGOネットワーク等、国際協力団体との連携事業

さいたま市国際NGOネットワークと共催で、2月19日（日）に「わくわく国際フェスタ」

（会場：浦和コミュニティセンター）を開催。『さいたま市の魅力再発見』をテーマに、蔓青園4代園主の加藤初治氏や大宮盆栽美術館の翻訳を手がけている、Brad Semans氏より「盆栽を通しての国際交流」の講演をしていただいた。その後、留学生とともにディスカッションを行い更なる国際交流に対する理解を深めていただくことができた。（来場者数：60人）

【収益事業等】

(1)収益事業

■物品販売事業

①観光オリジナルグッズ等の販売による収益事業の推進

グッズ売上 637,732円

②その他、自主財源の確立に向けた取組

観光案内所による推奨土産品、観光グッズ、委託物品の販売業務
販売手数料収入 355,832円

(2)その他

■その他事業

①情報収集事業

観光コンベンション団体、関係機関との広域的連携による情報収集
大都市観光協会連絡協議会（堺市）へ参加し情報交換を行った。

②会員サービス事業

会員相互の交流の場の提供及び会員名簿の作成
新年賀詞交歓会を2月6日に開催した。（来賓16人、会員158人）

③経営基盤強化、効率的な組織運営に関する検討

組織、事業の見直しについて検討した。

④安全衛生管理事業

職員の安全と健康の確保を目的として衛生委員会を設置するとともに、産業保健師による衛生講話を実施した。